ＪＲ東海労ニュース

№１６３７
２０１１年１２月７日
ＪＲ東海労働組合

粉ミルクから☢放射性物質
「安全だ」と言う人たちは、何を根拠にしているのか？

大手企業が生産する乳児用の粉ミルクから１kgあたり最大30.8ベクレルの放射性セシウムが検出されたと、12月７日に新聞報道されました。厚生労働省は「健康に影響はない」と発表、また、テレビの情報番組でも専門家が出演し「基準値をはるかに下回り安全である」とコメントしています。

しかし、その根拠は一体何なのでしょうか？福島第一原発事故直後「直ちに影響はない」との政府発表と同じことを繰り返すのでしょうか？粉ミルクは一時的に飲むものではありません。赤ちゃんの主食であり、離乳食が食べられるまで毎日飲み続けなければなりません。放射性物質は日ごとに体内に蓄積されます。

東京新聞 12／7

粉ミルクにセシウム

規制値以下 大気から混入か

明治40万缶交換

厚生労働省は「健康に影響はない」としている。同社は約四十万缶を無償交換する。＝関連7㊤面

東京電力福島第一原発事故後、粉ミルクからのセシウム検出は初めて。これまで厚労省

明治の粉ミルク「明治ステップ」（850グラム缶）

埼玉工場（埼玉県春日部市）で製造していた二月二十一日の製造分を検査したが、不検出だったため「すべての粉ミルクでも不検出と判断した」（広報部）と説明している。対象の製品は四月中に缶に詰めて出荷。十一月下旬になって日生協の購入者から一放射性物質が検出されたと指摘を受け同社で検査したところ、セシウムが確認された。原料の脱脂粉乳など

ＷＨＯの基準値は、飲み物でセシウム137の場合１㍑あたり10ベクレルです。原発事故前は日本はこの基準値でしたが、現在では200ベクレルまで一気に緩和されたのです。

国際基準にすると補償問題などで多額な金がいるからでしょうか。金と人命どちらが大切なのでしょうか。

幸い、企業の判断で粉ミルクは回収されています。逆にとらえると、粉ミルクを飲んだ乳児が将来被曝の危険があるのではないでしょうか。政府は基準値を見直し、食生活の安全を再考すべきです。

国際基準値よりはるかに甘い日本の基準値
政府は基準値を見直すべきだ！